

■林子平 経世家。「海国兵談」を著し、海防に関する世論の喚起につとめたが、幕府の忌諱に触れ、蟄居で憤死。  
はやししへい  
・ ・ ・ ・ ・ 1738＝ 江戸で、小納戸兼書物奉行で古今の典故に通じた学者でもあった岡村良通の次男にうまれる。  
・ ・ ・ ・ ・ 1740＝ 2歳：父が刃傷沙汰を起こして除籍されたため、町医者者の叔父林従吾に預けられる。

養父から実理と窮理の道を教えられて育つうち、  
徳川吉宗隠居 1745＝ 7歳：

義経千本桜・1747＝ 9歳：姉なおが仙台藩主の侍女となり、その美貌を見込まれて側室になる。  
その縁で、叔父林従吾は三十人扶持となり、

徳川吉宗没・1751＝13歳：  
・ ・ ・ ・ ・ 1752＝14歳：この年、江戸に戻った父が、名を林笠翁と改め、子どもらに訓諭十五条を認める。

・ ・ ・ ・ ・ 1756＝18歳：叔父の死去後、後を継いだ兄嘉膳が仙台藩士に挙げられ、藩主の死去後、  
源内物産会・1757＝19歳：仙台詰めとなったので、一家で仙台に移る。

子平の身分は無禄厄介という不遇なものだったが、これを逆用して自由に出府して見聞を広めて行く。  
大岡忠光没・1760＝22歳：  
・ ・ ・ ・ ・ 1761＝23歳：父が仙台に来て、以後、子どもらと暮らす。

江戸では工藤平助に兄事し、あるいは桂川甫周らの蘭学者と交わり、新知識を学ぶ。

蘭銭初輸入・1765＝27歳： 仙台藩へ「学校改革の要」を建言。

漢学の学統は不明であるが、徂徠学の影響が大きく、その立場から藩当局にあてて藩政改革に関する上書を3度書いている。

田沼意次老中 1772＝34歳：

解体新書・・1774＝36歳：  
黄表紙始・・1775＝37歳：初めて長崎を訪れる。

・ ・ ・ ・ ・ 1777＝39歳：再び、長崎を訪問。

・ ・ ・ ・ ・ 1781＝43歳：三度、長崎を訪問。 仙台藩へ「学校建設資金のための貨殖の道」を建言。  
他方、 長崎で、蘭人から北方海域におけるロシアの進出をきき、

蘭学階梯・・1783＝45歳：

蝦夷初調査・1785＝47歳： \*仙台藩へ「富国策」を建言。「三国通覧図説」を完成し、  
田沼意次失脚 1786＝48歳： \*桂川甫周の序を得て刊行。続いて、海防に関する世論の喚起につとめるべく「海国兵談」を完成し、

混浴禁止・・1791＝53歳： \*工藤平助の序を得て、ようやく「海国兵談」が刊行にこぎつけるも、幕府の忌諱に触れて召喚され、  
ラッパの来日・1792＝54歳： \*在所蟄居を命ぜられ、  
松平定信引退 1793＝55歳： 板木・製本はともに没収され、不遇のうちに病没した。